

## <資料> 陸軍中野学校に関する資料

注 1 重要書類、秘密兵器、通信機材等の焼却廃棄は 8 月 14 日より開始された。武器等は校庭の隅の方に埋めました。(中野学校は空襲をさけるために昭和二十年富岡に移転。中野の資材は列車で富岡に運ばれた。・・・引用者)

注 2 中野学校では「銃器・刃物による殺人、毒薬や毒物の使用法、偽装・変装術」などの実地訓練と演習が盛んに行われていた

注 3 二〇〇五年に陸軍中野学校の教材資料一式が、六〇年ぶりに発見された。教材は、「国体学」「謀略」「宣伝」「諜報」「偵諜」「人ニ対スル薬物致死量調」「主要伝染病ノ概要」「戦術」「校外総合演習計画書」など九点に及ぶ。

注 4 学校本部や寄宿舎、実験棟、運動場があった場所は戦後、国有地として警察大学校や管区警察学校などの施設が置かれていたが、・・・

注 5 櫻一郎の証言として、実験室、工場、射撃場の存在が確認されている。(別紙地図参照)

以上・・・斉藤充功著「諜報員たちの戦後 陸軍中野学校の真実」(角川書店)

注 6 工場(簡単な秘密戦資材の製作)、実験隊(秘密戦資材の研究、実験)

注 7 術科といえばスパイ専門教育の技術も叩き込まれた。万年筆やライターに仕込まれた超小型カメラの操作、テープレコーダーを相手方に知られずに装置しての盗聴、暗号文作成、解読、防諜的配慮が施された機密文書の盗読、細菌戦の基礎知識、扱い方、毒薬、毒ガスの使い方や、爆発物の駆使による敵鉄道の爆破。橋梁、送電線の切断など、姿なき間諜へと駆り立てられていった。

以上・・・斉藤充功著「陸軍中野学校」(平凡社)

注 8 実験隊=登戸研究所などで試作した資材の実験を行う。

以上・・・畠山清行著「秘録 陸軍中野学校」(新潮社)

注 9 登戸研究所では、秘密戦資材とは「諜報機材」「防諜機材」「謀略器材」「宣伝器材」である。・・・略・・・「謀略器材」とは、敵国または第三国による政治的・軍事的・破壊的工作のために使用する、爆破、殺傷、放火、毒物、細菌、偽騙などの器材である。・・・略・・・

以上・・・「高校生が追う 陸軍登戸研究所」(教育史料出版会)

注 10 実験隊は、秘密戦の実行手段一秘密戦技の実験研究および各種学生を対象とした秘密戦技の教育訓練(実科教育)を担当した。・・・(略)・・・実験隊の資材および資料には、次のようなものがあった。

潜入潜行用一各種磁石。・・・(略)・・・

儀騙変装用一・・・(略)・・・テープレコーダー。写真用具。・・・(略)・・・

宣伝用一・・・(略)・・・グラビア印刷機。・・・(略)・・・放送器具など。

破壊用一軍用爆薬。発火器。点火器。・・・(略)・・・

通信用一対向通信器。軍用無線。有線器材。

登戸研究所資材一ライター型ピストル。煉瓦式発火器。石炭型爆薬、毒薬、偽札、秘密連絡器具、特殊携帯口糧。

以上・・・伊藤貞利著「中野学校の秘密戦」(中央書林)

その他、参考にした文献

伴繁雄著「陸軍登戸研究所の真実」(芙蓉書房出版) 加藤正夫著「陸軍中野学校の全貌」(展転社)

岩井忠熊著「陸軍・秘密情報機関の男」(新日本出版社)